

# 江別市立江別太小学校いじめ防止基本方針

令和6年2月

## 1. 基本理念

本方針は、いじめ防止対策推進法第13条および北海道いじめ防止基本方針、江別市いじめ防止基本方針に基づき、江別市立江別太小学校のいじめ防止のために策定した。

この基本方針のもとに、江別太小学校では豊かな心と健やかな体を育成する教育を推進し、すべての子どもが、笑顔あふれる、希望に満ちた学校生活を送るために、いじめの起こらない学校づくりを推進する。

いじめの防止等のための対策は、いじめが全ての児童に関係する問題であることに鑑み、児童が安心して学習その他の活動に取り組むことができるよう、学校の内外を問わずいじめが行われなくなるようにすることを旨として行われなければならない。

いじめの防止等のための対策は、全ての児童がいじめを行わず、及び他の児童に対して行われるいじめを認識しながらこれを放置することがないようにするため、いじめが児童の心身に及ぼす影響その他のいじめの問題に関する児童の理解を深めることを旨として行われなければならない。

いじめの防止等のための対策は、いじめを受けた児童の生命及び心身を保護することが特に重要であることを認識しつつ、国、地方公共団体、学校、地域住民、家庭その他の関係者の連携の下、いじめの問題を克服することを目指して行われなければならない。

(いじめ防止対策推進法第3条)

## 2. いじめの定義、いじめの理解

「いじめ」とは、児童に対して、当該児童が在籍する学校に在籍している等、当該児童と一定の人的関係にある他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、当該行為の対象となった児童が心身の苦痛を感じているものをいう。

(いじめ防止対策推進法第2条)

具体的ないじめの態様は、以下のようなものがある。

- ・ 冷やかしかやからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる。
- ・ 仲間はずれ、集団による無視をされる。
- ・ 軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする。
- ・ ひどくぶつかられたり、叩かれたり、蹴られたりする。
- ・ 金品をたかられる
- ・ 金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする。
- ・ 嫌なことやはずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする。
- ・ パソコンや携帯電話等で、誹謗中傷や嫌なことをされる。

けんかやふざけ合いであっても、見えない所で発生している場合もあるため、背景にある事情の調査を行い、児童生徒の感じる被害性に着目し、いじめに該当するか否かを判断する。

また、いじめは、単にいじめられている児童生徒といじめる児童生徒の関係だけでとらえることはできない。いじめは「観衆」や「傍観者」などの周囲の反応が大きく影響している。よって、いじめは、加害者、被害者だけの問題ではなく、全ての児童生徒等に関係する問題（集団の問題）であることを認識する必要がある。

いじめの中には、「犯罪行為」や重大ないじめ事案として、警察への相談又は通報を行うことが必要となるものが含まれており、想定される主な事例には次のようなものがある。

学校で起こり得る主な事例	該当し得る犯罪
性器や胸・お尻を触る。	不同意わいせつ（刑法第 176 条）
同級生に「死ね」とそそのかし、その同級生が自殺した。	自殺関与（刑法第 202 条）
顔を殴打しケガを負わせる。	傷害（刑法第 204 条）
同級生を殴ったり、無理やり衣服を脱がせたりする。	暴行（刑法第 208 条）
裸などの写真・動画をインターネット上で拡散すると脅す。	脅迫（刑法第 222 条）
遊びなどと称して、無理やり危険な行為や恥ずかしい行為をさせる。	強要（刑法第 223 条）
教科書等の所持品を盗む。	窃盗（刑法第 235 条）
断れば危害を加えると脅し、現金を巻き上げる。	恐喝（刑法第 249 条）
スマートフォンで裸などの写真・動画を撮って送らせたり、その写真・動画を SNS 上のグループに送信したりする。	児童ポルノ提供等（児童買春、児童ポルノに係る行為等の規制及び処罰並びに児童の保護等に関する法律第 7 条）

これらの対応にあたっては、教育的な配慮や被害児童生徒の意向を十分に配慮したうえで、児童生徒の命や安全を守ることを最優先に、早期に相談・通報を行い、適切な援助を求める必要がある。

### 3. いじめ対策のための校内組織の設置

いじめ防止に関する措置を実効的に行うため、校長、教頭、生徒指導担当教諭、学年主任、該当学級担任、養護教諭による「いじめ防止対策委員会」を設置し、必要に応じて委員会を開催する。また、心理や福祉の専門家（スクールカウンセラー、心の教室相談員、スクールソーシャルワーカーなど）を組織の構成員に位置付け、必要に応じて出席を依頼する。

委員会は、いじめ問題に組織的に取り組むに当たって中核となるものであり、次の役割を担う。

#### 【いじめ防止対策委員会の主な役割】

- ・ 学校基本方針に基づく取組の実施や具体的な年間計画の作成・実行・検証・修正
- ・ いじめの相談・通報の窓口
- ・ いじめの疑いに関する情報や児童の問題行動などに係る情報収集と記録、共有
- ・ いじめの疑いに係る情報があった場合には緊急会議を開いて、いじめの情報の迅速な共有、関係ある児童への事実関係の聴取、指導や支援の体制・対応方針の決定と保護者との連携といった対応を組織的に実施

#### 4. いじめの防止のための取組

- ① いじめはどの子どもにも起こりうるという事実を踏まえ、全ての児童を対象に、いじめに向かわせないための未然防止に取り組む。
- ② 未然防止の基本は、児童が心の通じ合うコミュニケーション能力を育み、規律正しい態度で授業や行事に主体的に参加・活躍できるような授業づくりや集団づくりを行う。
- ③ 集団の一員としての自覚や自信を育むことにより、互いを認め合える人間関係及び学級・学校風土をつくる。

#### 【主な取組】

- ・ 学校の教育活動全体を通じた道徳教育や自己肯定感を育む体験活動などの充実
- ・ 豊かな心と健やかな体を育成する教育、規範意識や思いやりの心などを育成する教育の推進
- ・ いじめゼロを目指した児童会活動
- ・ 異学年交流を充実させ、他者から認められる、他者の役に立っているという「自己有用感」を高める
- ・ いじめに関する校内研修を行い、教職員の資質能力の向上を図る

#### 5. 早期発見

- ① いじめは大人の目に付きにくい時間や場所で行われたり、遊びやふざけあいを装って行われたりするなど、大人が気づきにくく判断しにくい形で行われることが多いことを認識する。
- ② ささいな兆候であっても、いじめではないかとの疑いを持って、早い段階からの確に関わりを持ち、いじめを隠したり軽視したりすることなく、いじめを積極的に認知することが必要である。
- ③ 日頃から児童生徒の見守りや信頼関係の構築等に努め、児童が示す変化や危険信号を見逃さないようアンテナを高く保つ。

#### 【主な取組】

- ・ なかよしアンケートの実施（年3回の実施）

- ・教育相談の実施等により、児童がいじめを訴えやすい体制を整える
- ・児童の変化について、気付いたことを毎月の職員会議（生徒指導交流）において教職員全体で共有し、より大勢の目で当該児童を見守る
- ・ふれあい班活動を中心として、望ましい人間関係の構築を図る。
- ・日常的な児童に係わる懸念事項を積極的に共有し、状況によっては生徒指導対策委員会を開催する。

## 6. いじめへの対処

- ①いじめの発見・通報を受けた場合には、特定の教職員で抱え込まず、すみやかに学校いじめ防止対策委員会が対応する。
- ②聞き取り等を行った教職員は、いじめに関する情報を適切に記録する。
- ③学校いじめ防止対策委員会において情報を共有し、事実関係を確認したうえで適切な対応方針を決定する。
- ④いじめが犯罪行為に相当し得ると認められる場合には、あらかじめ保護者に対して説明の上、学校から警察へ相談・通報を行う。
- ⑤被害児童および加害児童の進級進学、転学の際は、児童の個人情報の取扱いに配慮した上で学校内・学校間での情報（指導記録等）の引継ぎを確実にを行う。
- ⑥児童の心のケアのため、スクールカウンセラー、心の教室相談員や養護教諭と連携を取りながら、必要な対応を行う。

## 7. インターネットを通じて行われるいじめに対する対策

- ①インターネットを通じて行われるいじめの未然防止のため、児童及び保護者に対して情報モラルに関する啓発活動を実施する。
- ②教育委員会が実施するネットパトロールに加え、学校でも必要に応じてネットパトロールを行い、関係機関と連携・協力して対応を進める。

### 【主な取組】

- ・外部講師を活用したネットモラル教室の実施（保護者にも参加を募る）
- ・ネットパトロールの実施
- ・ネットマナーの向上を目指した児童会活動

## 8. 重大事態への対処

### （1）重大事態の意味

重大事態とは、法の規定に基づき、次の場合をいう。

○いじめにより当該学校に在籍する児童等の生命、心身又は財産に重大な被害が生じた疑いがあると認めるとき

○いじめにより当該学校に在籍する児童等が相当の期間学校を欠席することを余儀なくされている疑いがあると認めるとき

（いじめ防止対策推進法第28条）

- ①第1号の「生命、心身又は財産に重大な被害」については、いじめを受ける児童の状況に着目して判断する。
- ②第2号の「相当の期間」については、不登校の定義を踏まえ年間30日を目安とする。
- ③児童や保護者から、いじめられて重大事態に至ったという申立てがあったときは、その時点で学校が「いじめの結果ではない」あるいは「重大事態とはいえない」と考えたとしても、重大事態が発生したものとして扱う。

## (2) 重大事態への対処

### いじめの疑いに関する情報

- ・「いじめ防止対策委員会」で、いじめの疑いに関する情報の収集と記録、共有
- ・いじめの事実の確認を行い、結果を教育委員会に報告

### 重大事態の発生

- ・教育委員会に重大事態の発生を報告（教育委員会から市長に報告）

### 教育委員会が、重大事態の調査の主体を判断する

#### 学校が調査主体の場合

##### ○ 学校のもとに、重大事態の調査組織を設置

- ・調査組織は「いじめ防止対策委員会」を母体とする。ただし、当該重大事態の性質によっては教育委員会との協議により、専門的知識及び経験を有し、当該いじめ事案の関係者と直接の人間関係又は特別の利害関係を有しない第三者の参加を図ることで、当該調査の公平性・中立性を確保するよう努めることもある。

##### ○ 調査組織で、事実関係を明確にするための調査を実施

- ・いじめ行為の事実関係を、可能な限り網羅的に明確にする。この際、因果関係の特定を急ぐべきではなく、客観的な事実関係を速やかに調査する。
- ・たとえ学校に不都合なことがあったとしても、事実に向かって向き合う。
- ・これまで学校で先行して調査している場合も、調査資料の再分析や必要に応じて新たな調査を実施する。

##### ○ いじめを受けた児童及び保護者に対して情報を適切に提供

- ・調査により明らかになった事実関係の情報を、適時・適切な方法で経過報告する。
- ・関係者の個人情報に十分配慮する。ただし、いたずらに個人情報保護を楯に、説明を怠らないようにする。

- ・ 得られたアンケートは、いじめられた児童や保護者に提供する場合があることを念頭に置き、調査に先立ち、その旨を調査対象の在校生や保護者に説明する等の措置が必要。

○ **調査結果を教育委員会に報告（教育委員会から市長に報告）**

- ・ いじめを受けた児童又はその保護者が希望する場合には、いじめを受けた児童又はその保護者の所見をまとめた文書の提供を受け、調査結果に添える。

○ **調査結果を踏まえた必要な措置**

**教育委員会が調査主体となる場合**

○ **教育委員会の指示のもと、資料提出など、調査に協力**